

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.24

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

新規科目「岩手の研究『三陸の復興を考える』」を開設しました

岩手大学は東日本大震災発生直後から、「岩手の復興と再生にオール岩大パワーを」というスローガンを掲げ、教職員、学生が一丸となって地域に根ざした活動に全力を傾注してきました。しかし、震災から2年半以上が経過した今もなお復旧・復興への道のりは厳しいのが現状です。

このような現状を踏まえ岩手大学では、三陸地域のさらなる復旧・復興に向けて、次代の地域を担う人材を育成するため、今年度の後期から全学共通教育科目として震災復興に関連する新規科目「岩手の研究『三陸の復興を考える』」を開設しました。

授業では、三陸復興推進機構の構成員として様々な分野で復興に携わっている教職員に加え、復興庁岩手復興局や岩手県復興局、釜石市復興推進本部など様々な立場で被災地の復興に関わる方々を講師に招き、グループディスカッションなどを交えた多彩な講義が展開されています。

平成26年度からは、全学部の1年生を対象とした必修科目を新規に開設し、授業の一環として被災地での合宿研修を行うこと

も予定しています。

岩手大学は、人材育成という観点からも被災地の復興に貢献していけるよう努めて参ります。



授業の中でグループディスカッションを行う学生たち

第3回全国水産系研究者フォーラムを開催しました

11月9日、東京海洋大学品川キャンパスを会場に、第3回全国水産系研究者フォーラムを開催しました。本フォーラムは、東日本大震災により壊滅的な被害を受けた三陸水産業の現状を踏まえ、全国から水産系研究者の知見を結集し、新たな水産資源の活用方策を探るとともに、岩手県の県民・自治体・関係団体・企業・NPO等の各層と協同で水産系分野の研究拠点を形成することを目指し、平成23年度から岩手大学が東京海洋大学、北里大学と共に開催しているものです。

今回のフォーラムは「震災後の三陸地域における水産業の現状と復興」をテーマに、全国水産系研究者のより一層の横断的ネットワーク構築と三陸復興を目指して開催し、100名を超える方々にご参加いただきました。

フォーラムの前半には、「東日本大震災津波の被害の実相と漁村の復興について」と題し、(株)漁村計画の富田宏代表取締役からご講演いただき、東京海洋大学の小川廣男理事、岩手県水産技術センターの井ノ口伸幸所長、東京大学大気海洋研究所の木暮一啓教授、(独)水産総合研究センター東北区水産研究所の堀井豊充資源生産部長から、被災地での研究活動報告を行っていただ



基調講演を行う富田宏(株)漁村計画代表取締役

きました。

フォーラムの後半には、愛媛大学の山内皓平南予水産研究センター長をモデレーターにパネルディスカッションを行いました。パネラーは基調講演及び研究活動報告をしていただいた各講師の方々に、多様な立場からご発言いただきました。今回のパネルディスカッションでは、被災地の復興に向けた人材育成についても言及され、多様な分野の知識を持ち、水産業の復興を含めた地域全体の復興をコーディネートできる人材が必要であるとの意見も出されました。

三陸水産業の復興をさらに加速させるためには、大学の研究者だけではなく、様々な分野で活躍する多くの人たちと協力していく必要があります。今後も、このようなフォーラムを通して連携の輪を広げ、三陸水産業のさらなる復興を図っていきます。



パネルディスカッションの様子

岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一体となって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は、高度ものづくり人材育成講座などを開催し、被災地の製造業の復興に取り組んでいる、ものづくり産業復興推進部門人材育成班の活動の一例をご紹介します。

三陸のものづくり産業を担う人材育成を目指す ものづくり産業復興推進部門(人材育成班)の取組

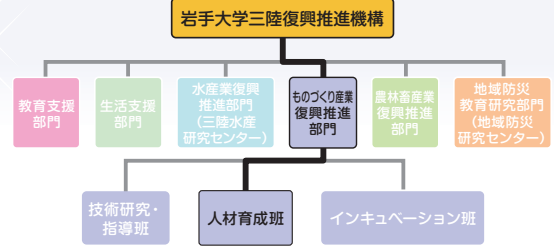
岩手大学三陸復興推進機構 ものづくり産業復興推進部門 人材育成班
廣瀬 宏一(工学部 教授)

震災復興においては、復興を目指す各地域の実情に合った「なりわい」の復興が重要なことは言うまでもありません。しかし現地では、既存の水産業、水産加工業などの回復にも時間がかかっています。それに比べ、製造業に代表される工業系はそうした第1次系の産業に比べて、早期の立ち直りが期待されます。釜石を中心とした地域には、新日鐵住金釜石製鐵所を基盤として、さまざまな製造業が展開しており、それらの産業の復興は単なる復旧ではなく、より高い付加価値を付与し、この地域における特色あるものとして地域のけん引役となることを期待されています。

ものづくり産業復興推進部門では、被災した釜石・大槌地域産業育成センターの再生に合わせて、最新鋭の加工機として同時5軸マシンニングセンター、ワイヤー放電加工機、3次元測定機、CAD-CAMシステムなどを導入しました。しかし、機器の導入だけでは真の復興



高度ものづくり産業人材育成講座



を支えることはできません。新しい事業を立ち上げたり、生産品に高い付加価値を付与する人材の育成が是非とも必要となっています。

岩手大学では平成19年から内陸地域において、地域再生人材創出拠点の形成事業として、マイスター(金型・鋳造・複合デバイスマイスター)育成事業を展開しています。こうした蓄積を活かし、平成23年度から「三陸復興プロジェクト高度ものづくり人材育成講座」を開講しています。平成23年度は三陸地域の企業や受講者のニーズ調査も兼ねて金型温度解析や表面処理技術など、平成24年度は日本技術士会による起業家支援講座、金型加工関連の各種技術およびMOT関連講座を、平成25年度は起業家支援講座と鋳造技術研究センターの協力を得て、鋳造技術関連の講座を開催しました。

震災後3年を経過しようとしています。ニーズの変化に対応しながら、三陸地域の産業人材育成を推し進めるため、「三陸復興プロジェクト高度ものづくり人材育成講座」を継続して開催する予定です。平成25年度からは新規導入した最新鋭機器やCAD-CAMシステムに関する講習会も開催していますが、部門の協力を得て、さらに展開する予定です。
【釜石サテライトだよりに関連記事】



CAD講習会

釜石サテライトだより

周囲の山々が白く薄化粧をするような季節になってしまいました。釜石サテライトでは、取水設備の工事が急ピッチで行われており、ようやく淡水の供給が始まりました。これから、サケやマスなど様々な魚類の飼育実験ができるようになり、ますます水産研究の拠点として期待されます。最近の釜石サテライトの活動状況について報告します。

●高度ものづくり人材育成講座の開催について

11月30日に本学工学部の教員による高度ものづくり人材育成講座が開催されました。この講座は三陸復興推進機構ものづくり産業復興推進部門の人材育成班の事業で、岩手マイスター事務局協力のもと昨年に引き続き行われました。

今回は岩手大学が研究に力を入れている分野のひとつである『鋳物』についての講座でした。ものづくり産業復興推進部門人材育成班長の廣瀬宏一教授の挨拶に続き、堀江皓特任教授、平塚真人教授、水本将之准教授による講演が行われました。



開会の挨拶をする廣瀬教授

鋳物はとても歴史が古く紀元前3500年頃に生まれたと言われていいます。岩手県には伝統工芸品である南部鉄器がありますが、これも鋳造によって作られています。また自動車にも鋳造部品が多く使われており、自動車産業が盛んな岩手県は鋳物と深いつながりがあるようです。

質疑応答では多くの積極的な質問が寄せられ、参加者の関心の高さが窺えました。釜石地区にはものづくり産業復興推進部門サテライトもありますので、今後も継続的にものづくり企業の支援や人材の育成を行って参ります。

●被災地研修の実施について

釜石サテライトでは、被災地研修の企画や受け入れ業務も行っていきます。

このほど、JICA集団研修によるアフリカの国家公務員15名、また、被災地に学ぶ地域再生研修として工学研究科の1・2年生と学部生20名が、被災地の大槌町と釜石市を訪れました。

今回は水産加工業者のご協力により減多に見られない工場内を見学することができ、高度衛生管理の取組を学ぶとともに、復興支援団体や役場職員からの被災地の現状の話を伺うことができました。

また、語り部ボランティアからは、愛する彼女を津波で失った辛い心情が語られ、役場職員からは、目の前で同僚が沈んでいったことや多くのご遺体を目にした経験が今でも頭に蘇り、精神的にも辛いまま仕事に追われている職員が多いという現状を聞き、多くの学生が涙していました。

『命の尊さ』と『震災はまだ続いている』ということ胸に刻むことができた被災地研修でした。

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先 岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライト
〒026-0001 岩手県釜石市平田第三地割75-1
TEL:0193-55-5691(代表) / FAX:0193-36-1610
E-mail:kamaishi@iwate-u.ac.jp
URL:http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/kamaishi/



役場の前で説明を聞くJICA研修員



水産加工場の説明を受ける学生

Information

東日本大震災で被災した受験生・在学生への 平成26年度における経済的支援について

岩手大学では、平成23年度から行ってきた、東日本大震災で被災した受験生並びに在学生に対する学納金等の減免措置を、平成26年度も次のとおり継続します。

支援内容

- I 検定料の全額免除 ※平成27年度入学者対象
(被災状況と家計状況の要件を満たす受験生を全額免除とします)
- II 入学金、授業料、学生寮寄宿料の全額免除・減額
(被災状況と家計状況に応じて全額免除または減額とします)
- III 岩手大学独自奨学金、民間財団等奨学金の給付(返済不要)
(被災者のうち、各奨学金の応募要件を満たす学生に給付します)

お問い合わせ先

検定料について
入学金、授業料、奨学金について
学生寮寄宿料について

入試課
学生支援課奨学金グループ
学生支援課学生支援グループ

TEL:019-621-6064
TEL:019-621-6882
TEL:019-621-6060

※被災： 家屋の損壊、
原発被害、主たる家
計支持者の死亡等

減免の基準や申請方法等、詳細については右記URLからご確認ください。 <http://www.iwate-u.ac.jp/attention/keizaishien.shhtml>

編集後記

12月4日に発表された本学教育学部社会学研究室の調査では、仮設住宅で暮らす方の67%が今なお精神状態が好転していないという現状が明らかになりました。震災からまもなく3年経とうとしていますが、被災地の復興には今なお課題が山積しており、岩手大学は被災地にある大学として、復興へ向けた取組を継続しております。本レターも今回の24号で創刊から2年となりましたが、今後も岩手大学の取組をお届けして参りたいと思います。